

# 留学生新聞

第8号 2006年11月15日発行

〒512-8512 四日市市萱生町1200 留学生支援センター  
四日市大学留学生会 Tel. 059-365-6793(代)

Mail:g4203015@edu.yokkaichi-u.ac.jp



留学生の皆さん、お久しぶりです。また、皆さんに留学生新聞を送ることができてとても嬉しいです。

夏休みはいかがお過ごしでしたか？故郷に帰った。アルバイトに頑張った。四年生の先輩は就職活動に忙しかったことでしょう。後期がスタートしました。季節は秋を迎えました。十月に入ると、虫の声も静かになり、冬の鳥がやってきます。菊の花が咲き、木々も色づき始めます。日本の秋は、とても大好きです。なぜならば、秋は落ち着いた色調の似合う季節、暑くも寒くもなく過ごしやすい季節、穀物や果物が実る充実の季節です。しかし、急に寒くなったりする季節なので、体調に気をつけましょう。

本紙に登場するニュースは、就職情報や奨学金情報、そして留学生の活動が沢山載っています。皆さんのお役に立てれば幸いです。今回も是非、読んで下さい。どうぞ宜しくお願い！

【編集部・馬暁セイ、王文ケン、劉藍】

## ～ 大学祭 ～ お疲れ様でした。 ご協力ありがとうございました！



皆さんご存知の通り、本学の大学祭が、10月28・29日に開催されました。留学生会が中心となり、毎年恒例となっている留学生のお店「ASIAN」を今年も出店しました。昨年に引き続き、中国「水餃子」、バングラディッシュ「カレー」、そして今年はベトナムの「フォー」を販売しました。ブース(お店)はお客様を呼び込む声で、どこのお店よりも活気づいており、大学祭の盛り上げに一役かかっていました。また、お客様の中には「これを楽しみに毎年大学祭に来ているのよ」という方もみえました。来年も是非続けていきましょう。売り上げは約15万円でした。売上金の一部は「中国雲南省に小学校を建てようプロジェクト(詳しくはP7)」に寄付いたします。

# 研修旅行



## 総合政策学部2年 王 文娟

めぐ

9月19日、秋晴れの天候に恵まれたその日、私たち留学生は、四日市市の地場産業「万古焼」作りに挑戦した。陶芸は中国でもとても古い歴史がある。芸術的な様々な作品を見たことはあっても、作ってみようとは思ったことはないし、それを作ることもそれほど難しくないものだと思っていた。当日の朝、川原町の駅でみんなと集合して、「万古の里会館」へ向かった。

会館に入るとすぐ目についたのは、いろんな形のいろんな色をした陶器がずらりと並んでいた。それを目にした私たち留学生は、自分の心の中で描いている陶器を作りたくて興奮してきた。少しすると陶芸の先生がやって来た。まずはお手本を見るため、私たちは先生の「ろくろ」の周りを囲んだ。先生は、陶器を作る基礎知識を伝えながら、熟練した手さばきで、いとも簡単に陶器を作り始めた。ただの土の塊が瞬間に「ろくろ」の上で器となった。先生の微妙な指の動きが「ろくろ」の上で回る器に変化を加え、その度に私たちはため息をついた。それと同時にあまりに簡単に完成させた先生の技術に、私は簡単にできそうな余裕を感じてしまった。みんなの顔を見ても、嬉しそうな自信満々の顔が並んでいた。その後、私たちは原料となる土の塊と「ろくろ」を一つ借りて各テーブルにつき、先生の後に続いて土をいじり始めた。しかし、自信満々の顔はすぐに消え、陶芸の難しさと今日中に完成できるのだろうかという不安に変わった。目の前が暗くなった。きっと私たち全員が同じ

気持ちだったに違いない。私は、自分だけのカップを作りたい。世界にひとつしかないオリジナルカップ。まずはカップの底を作る。この底を作るだけで私の頭は痛くなった。どうしても円にならない。何回作り直してもだめだ。結局、先生を呼んだ。先生は微妙な力の加減できれいな円をつくりカップの底を作った。私のカップの底は先生が作ったものだ……。周りの人を見ると、みんな一心不乱に削っている。1回目は失敗、2回目も失敗、3回目にできると、次は気に入る物ができるまでやり直す。土は生きている。長い間、土を手を持っていじっていると、熱をおび、水分が無くなり、硬くなる。すばやく完成させることも必要だ。みんなの真剣な目を見ると私も頑張らないと。しかし、どうしても私のカップの口がどんどん広がる。何回作り直しても私のカップは湯のみにしかならない。先生を呼ぼうと思った。しかし、また先生に手伝ってもらったらこの作品は私の作った物ではなくなる。それだったら意味がない。やはり自分でがんばらなくてはならない。でもカップの口はどんどん広がる。結局私は、カップを諦め、湯のみにした。周りのみんなを見ると、変わらずに集中した顔で土をいじっている。花瓶を作る者、灰皿を作る者、貯金箱を作る者。あっという間に2時間が過ぎた。みんなの作品も完成に近づいた。後は焼いてもらうだけだ。ずらっと並んだ作品は陶器ショップの陳列台のように順番を待っている。その横でわが子を見るようなみんなの顔が並んでいる。みんなは「表面をツルツルにするのが難しい。」「土の感触は気持ちがいい。」「日本留学のよい記念になった。」「1ヶ月後の完成品が待ち遠しい。」と話しながら、その顔は何かを成し遂げた、達成感で一杯の笑顔であった。作品は先生が色づけと焼き上げをして、1ヶ月後に手元に戻ることになっている。その後は、作品展を開く予定だ。

今年の「万古焼」体験は、特に有意義な留学生研修旅行であった。陶芸を通して得た、忍耐力と達成感。そして芸術性表現力と想像力を十分に鍛錬することができた。陶芸の石田先生、そして研修旅行に連れて行ってくれた四日市大学に心から感謝したいと思う。





# 留学生弁論大会受賞特集

## 四日市大学「留学生弁論大会」

今年で3回目を迎える「留学生日本語弁論大会」が開催され、留学生20名の応募の中から、予選を勝ち抜いた9名が出場しました。留学生活から学んだ経験や、将来の夢など様々なテーマで弁論を行いました。本年度は後援に四日市北ロータリークラブ、国際ソロプチミスト三重一北の協力を頂き、地域の方々にも来ていただきました。また、ゲストスピーカーとして、英語スピーチコンテストにて代表に選ばれた、小牟禮さんの英語スピーチも行いました。

学部、学年	氏名	スピーチのテーマ
環境 3	張 斌	わたしの留学生活
経ビ 2	鄭 連柱	豊かさとは何か
経済 1	ドゥンゴック タイン	富士登山から学んだこと
経ビ 1	張 興艶	今時の若者を考える
総合 2	王 聡	幸せってなんだろう
経済 2	孟 佳華	日本人と血液型
経済 2	辺 小雷	わたしの夢
総合 3	崔 虎	日本ブームが蒔いた友好の種
経ビ 2	孫 燕	外見よりも中身
総合 4	小牟禮 諭	What's important to keep goldfish?

学部総合政策学科2年生のオウソウは「幸せってなんだろう」をテーマに、優良賞を受賞しました。また他大学の留学生のスピーチに刺激を受けたり、文化交流も体験し、留学生にとって大変有意義な1日となりました。受賞者の皆さん、おめでとうございます。



三重県留学生日本語弁論大会  
2006.10.22(日) 主催/留学生日本語弁論大会実行委員会 後援/三重県国際交流協会 津市国際文化協会 監/三重県総合文化センター-豊後共同学園センター-多目的ホール



## 三重県留学生弁論大会

10月22日(日)津市三重県総合文化センターにて、第5回WFWP(世界女性連合)三重県留学生弁論大会が行われました。県内の大学に在籍している中国、インドネシア、アメリカ出身の8名の留学生が出場し、うち本学からは中国人留学生4名が参加しました。総合政策学部総合政策学科3年生のサイコは「日本ブームが蒔いた友好の種」をテーマに優秀賞を受賞しました。また環境情報学部メディアコミュニケーション学科3年生のマギョウセイは「国際化と意識改革」、経済学部現代ビジネス学科2年生のソンエンは「外見よりも中身」、総合政策

## 鈴鹿国際大学弁論大会

薩日娜さん「優秀賞」受賞、おめでとう!経済学部経営学科1年生 薩日娜(サリナ)さんが、10月29日(日)鈴鹿国際大学外国人日本語スピーチコンテストに出場し、みごと優秀賞に輝きました。今年10名の外国人が参加し、本学の薩日娜(サリナ)さんは、「家族からの旅立ち」をテーマに、彼女の来日後の苦しみや困難、ホームシックにかかり毎日のように家族に連絡をとっていた当時の様子、そしてその苦難の道を乗り越えて現在に至るまでの様子をスピーチしました。



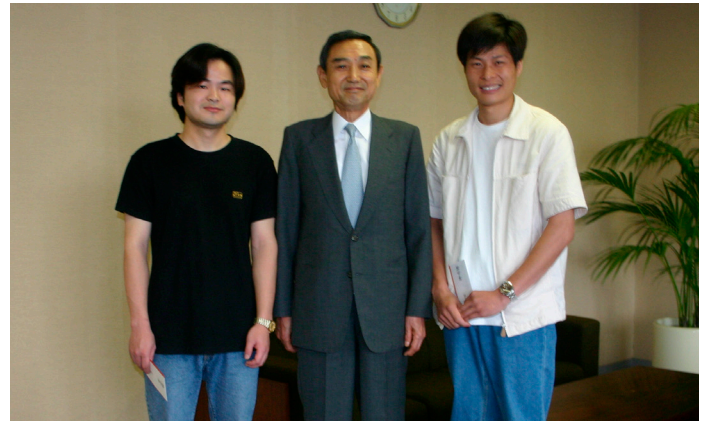
# 「留学生による日本再発見の旅 ~Discover Japan~」

7月12日(水)、「留学生による日本再発見の旅 ~Discover Japan~」奨学金授与式が行われ、学長 宗村南男先生より受賞者2名に手渡されました。この奨学金は、日本再発見の旅を一人でも多くの留学生が体験できるように経済的な支援を目的として発足しました。今年度で2回目を迎えました。今年の受賞者は、経済学部 経済学科2年 辺 小雷 (ヘン ショウライ) さん、総合政策学部 総合政策学科2年 曾 輝 (ソ キ) さんが選ばれました。夏休みを利用して、富士登山に挑戦してきたようです。

## 経済学部 経済学科2年 辺 小雷

朝、いつもより早く起き、荷物をまとめ駅に向かった。名古屋駅から富士宮駅まで新幹線で向かった。富士宮駅からバスに乗り、一時間半ほどで五合目に着いた。休憩所で登山計画をし、仮眠を取った。一人ずつ右手に登山杖、左手にライトを持ち、いよいよ夜中頂上に向けて出発した。途中休憩を入れては、何度もあきらめようと考えたが、お互い励ましあいながら頂上を目指した。ようやく翌日4:30ごろ頂上に到着した。しばらくすると雨が降ってきて、日の出を見ることが出来なかった。お互い同時にため息が出た。非常に残念だった。ふっと友人を見たら、疲れきった表情と日の出が見ることができなくて悔しそうな顔をした様子を見たら、なんだか笑ってしまった。お互い運が悪いと思ったけれど、楽しい登山だった。

今回の「富士山の旅」はいい経験ができ、想像以上によかったと思っている。私は毎日、アルバイトと勉強で忙しく過ごしている。経済的に余裕もなく、時間もないのでこのような、長旅はなかなか出来ない。今回の旅で、リラックスはもちろんのこと、体を動かし、汗を流し、たくさんの日本人やまた他の国の外国人と会うことができ、とても有意義に過ごせた。これからの日本での留学生活の中で勉強だけでなく日本のことをもっと知り、充実した留学生生活を送って行きたいと思っている。



## 総合政策学部 総合政策学科2年 曾 輝

日本を代表する「富士山」。その美しい姿は、日本人だけでなく、世界中の人々から愛されている。そんな富士山へ、私はうれしさと楽しさがいっぱい、今回の旅が始まった。富士五合目、富士山頂、白系の滝、止音の滝、富士五湖、富士休暇村、富士宮神社を私たちは、ゆっくり観光した。

この旅の中で一番忘れられないことは、富士山の頂上まで登ったことである。夜11時、私たちは富士山の五合目を出発した。8月下旬だったので、夜の富士山は非常に寒かった。しかし、私たちは「山頂まで行くぞ」という信念をもって、小さい声で歌いながら登り続けた。他の登山者の人たちの元気な姿を、励みにして私は頑張った。また、他の登山者の人たちから、「おはようございます」や「頑張れ」と声を掛けてくれ、すごくうれしかった。こんな寒い夜でこんな高い山の中で、知らない人が声を掛けてくれるなんて思ってもみなかった。

約5時間かかって朝4:30ごろ私たちは、富士山の山頂へ着いた。「やったー!」と声を出し、私たちは抱き合って喜んだ。日本の富士山に登ったことは、一生忘れられない思い出であり、誰にでも自慢できる出来事である。

長年思い続けていた、富士山に登ることが実現した。日本の美しさを再発見し、とてもいい体験ができたと思っている。私は毎日、勉強とアルバイトで忙しく過ごしている。このような生活から、抜け出して美しい日本を見ることができ、心が癒された。今回「留学生による日本再発見の旅 ~Discover Japan~」の奨学金を頂く事ができ、この旅を成功させるためにさまざまな協力をして頂いた、学長宗村南男先生、留学生支援委員、および留学生支援センターのスタッフの方々に心から感謝している。



## 国際ソロプチミスト 三重 - 北奨学金

3月22日、本学にて国際ソロプチミスト三重 - 北奨学金の授与式が行われ、会長 樋口多喜子様、国際親善と理解活動委員長 藤澤 英美子様より、経済学部経済学科1年孟 佳華(モウカカ)さんに手渡されました。おめでとうございます。

受賞者の声... 国際ソロプチミスト三重 - 北奨学金をもらえることができ、とてもうれしかったです。ありがとうございました。これからも国際ソロプチミスト三重 - 北の皆様の支えを忘れずに、勉強に励みたいと思っております。



## 平成 18 年度 国際ソロプチミスト 三重 外国人留学生奨学金

6月15日(木) ホテルグリーンパーク津にて、「国際ソロプチミスト三重 外国人留学生奨学金」の授与式が行われました。受賞者は経済学部経営学科一年生のデシ ナタリア ヘル キン ティンクです。おめでとうございます。

## 平成 18 年度 四日市大学私費外国人留学生給付奨学金

6月15日(木) 学長室にて、「四日市大学私費外国人留学生給付奨学金」の授与式が行われました。受賞者は下記のとおりです。おめでとうございます。



学部	学科	学年	氏名
経済学部	経済学科	3年	マデュカバンダーラ
経済学部	経済学科	2年	イン ブンエイ
経済学部	経済学科	2年	ヘン ショウライ
経済学部	経済学科	2年	リ セン
経済学部	経営学科	2年	ゲン セイ
環境情報学部	環境情報学科	3年	オウ ナン
環境情報学部	環境情報学科	2年	ナリカ ナヤニ セマシンハ
総合政策学部	総合政策学科	2年	オウ コウ
総合政策学部	総合政策学科	2年	オウ ブンゴン
総合政策学部	総合政策学科	2年	リュウ シュウク

# 雲南省に小学校を建てようプロジェクト

雲南省とは、中国南西部に位置し、ベトナム、ラオス、ミャンマーと国境を接する地域です。高い山や河川が多く、盆地、湖が点在して複雑な地形を作り出しています。豊かな日本では想像も出来ない世界ですが、学校に行きたくても、貧困ゆえに教育を受けることが出来ない子供たちが、雲南省の山岳地帯には多数います。雲南省の山奥には独特の生活様式を保っている少数民族が数多く存在し、なかなか政府の支援も届かず、極めて貧しく厳しい生活をおくっています。そのような地域には、当然、学校もなく、教師もおらず、子供たちは読み書きも出来ないまま、大人になってしまいます。

そこで、私たち四日市大学留学生会は、川越高等学校、暁高等学校の皆さんと、教育の機会に恵まれない中国雲南少数民族の子供たちのために、雲南省の辺地に、学校建設を目指して募金活動を行っています。学校は約180万円集まれば建設できます。小学生1名は5,000円、中学生1名は10,000円あれば、1年間教育を受けさせてあげられます。教師1名を養成するのも年間32,000円あれば可能です。皆さんの寄附で貧しい山奥の子供たちが学校で教育を受けることが出来るのです。こうした活動には、雲南省の子供たちに学校建設の手助けや教師養成に役立てられるばかりか、私たちが恵まれた環境の中で自由に学べる事への感謝と実感を再確認することができました。学べること・・・それは当たり前のように思っていました、間違っていました。この活動は、これからも続く私たちの「留学生活」、学ぶことへの意欲となっていくことと思います。皆さんの温かいご支援をお待ちしております。



## 留学生のインドネシア紹介を開催

日本の約5倍の面積を持ち、1万5000以上島々からなるインドネシア。「あなたたち日本人は、観光地であるバリ島しか知らないの?」というインドネシア出身の留学生の声で、今年の「四日市大学フェスティバル」と「暁高校文化祭」の留学生お国紹介は「インドネシア共和国」に決定した。



- 開催日  
1 フェスティバル 8月26日(土)  
2 暁高校文化祭 9月14日(木)~15日(金)
- 場所  
1 四日市大学 9号館 1F  
2 暁高校学生ホール
- 来場者数  
1 198名      2 260名
- 内容  
鮮やかな民族衣装をまとった留学生が、インドネシアの言語や多様な文化をブースに来た来場者に紹介した。また、5月に発生したインドネシア中部ジャワ島地震の被災者を支援する募金箱を設置し、義捐金を募った。

# ニュース

## ◆留学交流にもプラスの影響か 日中関係が正常化へ

中国を訪問していた安倍晋三首相と中国の胡錦濤国家主席は、10月8日北京で会談し、靖国問題により途絶えていた相互訪問を再開し、両国関係を高度な次元に高めることで合意した。「戦略的<sup>りつきやく</sup>利益に立脚<sup>ごけい</sup>した互恵<sup>こうちく</sup>関係の構築」をうたいあげた共同プレス発表文の中には、来年の国交正常化35周年を念頭に、「両国民、特に青少年の交流を飛躍的に展開し、両国民の間の友好的な感情を増進する」という一文が盛り込まれた。安倍首相は先に出版した自らの著書の中で、海外からの留学生受け入れ枠を思い切って拡大する考えを打ち出しており、5年ぶりの相互訪問復活によって印象づけられた日中関係の正常化が、ここ数年低迷している日中留学交流にもプラスの影響を与えるか否か、今後に注目が集まる。

## ◆就職説明会シーズン大詰め 留学生が大挙参加

留学生の就職戦線がおおつが大詰めを迎えた先週は、全国各地で様々な就職説明会やジョブフェアが開催され、多くの参加者でにぎわった。好調な製造業が牽引する景気拡大が続く中部地区では10月25日、ハローワーク名古屋が主催する留学生向け就職説明会が実施され、採用企業22社が出展、150名近い参加者がつめかけた。現地の就職事情に詳しい参加者の一人は「中部地区は人手不足に悩む中小企業の間で特に外国人の採用意欲が強い。中小なので1社あたり1-2名と採用人数は少ないが、中国と取引のある企業が年々増加しているので、留学生にとって日本で就職するチャンスは着実に増えているのではないかと語っていた。首都圏では中国江蘇省が10月22日に実施した「海外人材招聘懇談会」に300名を越すとみられる留学生在日中国人が集まり、母国での就職・創業のチャンスを見つけようと、求人情報のチェックに余念がなかった。留学生どうしの激しい就職競争は、今や日本国内のみならず、帰国就職にも波及していることがあらためて浮き彫りになった。九州でも週末の28日、福岡県などが主催する「外国人留学生のための就職面談会」が行われた。また上記以外に、デル大連が主催する「採用説明選考会」も先週、大阪と福岡の両地方会場で大勢の参加者を集め、中には遠隔地から来場する留学生もみられるなど「世界の<sup>えんかくち</sup>大企業」としての根強い人気ぶりを示した。

## ◆日本留学生 予備軍は

### 「大卒失業者」か「受験失敗組」?

韓国の有力紙「朝鮮日報」の報道によると、同国で大卒以上の失業者数が今年8月現在で26万6千人を数え、ここ7年間で最高となった。特に4年制大学と大学院を卒業した学生の就職難が深刻だという。最近、進学説明会で韓国を訪問した都内の専門学校関係者は「ここ数年、日本留学を希望する韓国人の中では、大学を卒業しても就職できない、いわゆる大卒失業者の割合が目に見えて多くなっている。日本の専門学校も、こうした層を重要なマーケットとして学生獲得に取り組む必要があるのでは」と語っている。同様の傾向は「一人っ子政策」によって教育熱が高まっている中国でも顕著となっており「国内受験に失敗→海外留学、が定番コースとなっている観もある(留学仲介機関関係者)」とか。

## ◆くろしお出版が新日本語教材を出版

特色ある日本語教材の出版で定評のある、くろしお出版(東京都文京区)が、今年も外国人学習者向けの新教材を刊行した。同社の出版物では、これまで「日本語文型辞典」、「日本語中継」などの良書が留学生や日本語教員などに愛用されているが、このほど新たに「シャドーイング 日本語を話そう!」を発売、好評を博している。毎日少しずつ、自然な日本語会話をCDで聞きながら声に出して練習する「シャドーイング」という言語習得法を採り入れているのがポイント。英中韓の完全翻訳付きなので、外国人学生の自習にも最適だという。価格はCD付きで1470円。詳細はTEL03-5684-3389 同社まで。

## ◆韓国の留学生統計中国人が大幅アップ

韓国の教育人的資源部がこのほど公表した留学生統計によると、同国の大学など教育機関に在籍している外国人は今年4月現在、3万2557人で、このうち9割をアジア諸国が占めた。中でも中国人留学生の数は、2万0080人となり、ここ5年間でほぼ倍増している。現地の教育関係者はこの数字について「最近の韓流ブームなどで韓国への関心が高まった結果」と自画自賛しているが、受入数で見ると日本や中国に大きく水を空けられており、アジアの留学生受け入れ大国へ向けて「韓国語の国際化」が今後の大きな課題となりそうだ。



## 留学生クリスマスパーティー開催！

今年も、「クリスマスパーティー」の季節がやってきました！

楽しいゲームや企画を考えていますので、お友達も誘ってぜひ、参加してくださいね。

●日時：12月9日(土) 11:00-13:30ごろ

●場所：四日市大学 食堂

●会費：500円

●申込み：11月30日(木)までに留学生支援センターまで会費500円を持ってきてください。

## スポーツ大会でいい汗かきましょう！

年に一度のスポーツ大会！

日ごろの運動不足やストレス解消に、是非、参加しましょう。

日時：2007年3月28日(水) 9:30-13:00

●集合場所：体育館

●集合時間：9時30分

●種目：ソフトバレーボール、卓球、バスケットボールなど

●申し込み：3月27日(火)の16時まで

●参加費：200円(ジュース・ピザ代を含む)

当日は、体育館シューズ(上履き)をもってきてね。



## スキー研修旅行のお知らせ！

初めての方も大丈夫。スキーの先生が教えてくれます。

道具を持っていない方も大丈夫。スキー板も服も靴も全部貸してもらえます。

下記の日程で予定しているので、みんなで参加しましょう。

●日程：2007年3月4日(日)-6日(火)の2泊3日

●場所：今年は未定です。去年は車山高原スキー場：スカイパークホテルでした。

●受付期間：12月1日(金)-1月26日(金)

●受付：留学生支援センターまで・・・

●参加費：8,000円

